

## 2020年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2020年4月10日

東

上場会社名 株式会社ジンスホールディングス 上場取引所  
 コード番号 3046 URL https://jinsholdings.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 田中 仁  
 問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 山脇 幹也 (TEL) 03-5275-7001  
 四半期報告書提出予定日 2020年4月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年8月期第2四半期の連結業績(2019年9月1日～2020年2月29日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第2四半期	31,513	10.7	3,285	22.9	3,370	36.6	2,063	42.9
2019年8月期第2四半期	28,455	12.5	2,673	22.8	2,467	28.5	1,443	39.6

(注) 包括利益 2020年8月期第2四半期 1,973百万円(41.9%) 2019年8月期第2四半期 1,390百万円(27.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第2四半期	86.44	86.35
2019年8月期第2四半期	60.22	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第2四半期	57,489	18,193	31.6
2019年8月期	36,628	22,370	61.1

(参考) 自己資本 2020年8月期第2四半期 18,192百万円 2019年8月期 22,370百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2020年8月期	—	0.00	—	—	—
2020年8月期(予想)	—	—	—	未定	未定

2020年8月期の期末配当予想については、未定です。

## 3. 2020年8月期の連結業績予想(2019年9月1日～2020年8月31日)

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大しており、今後の業績に与える影響について、現時点では適正かつ合理的な算定が困難なため、「未定」とさせていただきます。今後、新型コロナウイルス感染症の動向を見極めながら、合理的な算定が出来次第速やかに開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年8月期2Q	23,980,000株	2019年8月期	23,980,000株
② 期末自己株式数	2020年8月期2Q	639,745株	2019年8月期	3,491株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年8月期2Q	23,870,388株	2019年8月期2Q	23,976,509株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

2020年4月10日(金)の決算発表後にホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年9月1日～2020年2月29日)における国内経済は、相次ぐ自然災害の影響及び消費税率引き上げによる消費マインド低下の懸念の中、個人消費は持ち直しつつあったものの、2020年2月下旬に新型コロナウイルスに関する政府の緊急対応策が発表されて以降、景気への悪影響が始まっております。一方、世界経済に目を向けると、中国では2020年1月から新型コロナウイルスの感染拡大により景気は急減速し、その影響は世界各国へ拡大しております。

また、国内眼鏡小売市場(視力矯正眼鏡)は、2016年3月以降、前年同期比マイナスの傾向が継続しているものの、足元は消費税増税による駆け込みなどにより、需要の変化の兆しが見られます。

このような市場環境の中で、当社グループのアイウェア事業では、経営課題として掲げている商品ラインアップの多様化及び接客力、店舗オペレーション力の向上などの取り組みを進めてまいりました。また国内アイウェア事業において更なる成長を実現していくために、イノベーティブなプロダクトの開発や店舗オペレーションの効率化に注力しました。商品開発につきましては、「近視のない世界の実現」に向けた取り組みの一環として、バイオレットライトを用いた近視進行抑制メガネ型医療機器開発の共同プロジェクトを進めており、当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は133百万円となりました。店舗戦略につきましては、引き続きショッピングモールや郊外ロードサイドへの出店を加速しつつ、新たな顧客体験を提案する次世代型店舗をオープンするなど、お客様がよりお求めやすい店舗の開発を進め、店舗基盤の強化に努めてまいりました。

店舗展開につきましては、当第2四半期連結会計期間末におけるアイウェア専門ショップの店舗数は、国内直営店404店舗、海外直営店201店舗(中国160店舗、台湾30店舗、香港6店舗、米国5店舗)の合計605店舗となりました。

なお、当社は2020年2月にアイウェア事業の更なる拡大及び新規事業の開発や持続的成長を可能にするための投資等を目的とした総額20,000百万円のユーロ円建転換社債型新株予約権付社債を発行いたしました。また、本新株予約権付社債の発行に伴う当社株式需給への短期的な影響を緩和し資金調達を円滑に実行するため、約5,000百万円の自己株式を取得いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は引き続き一式単価の上昇等の効果により既存店売上高が好調だったことから31,513百万円(前年同期比10.7%増)となりました。営業利益は研究開発費の計上があったものの、一式単価の上昇に伴い売上高総利益率が改善したこと等により3,285百万円(前年同期比22.9%増)となりました。経常利益は3,370百万円(前年同期比36.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,063百万円(前年同期比42.9%増)となりました。

セグメント業績の概要は、次のとおりであります。

セグメント別の売上高

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)	構成比	前年同期比
国内アイウェア事業	24,468百万円	77.6%	10.9%
海外アイウェア事業	5,826百万円	18.5%	13.3%
雑貨事業	1,218百万円	3.9%	△3.1%
合計	31,513百万円	100.0%	10.7%

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 〈国内アイウェア事業〉

国内アイウェア事業につきましては、店頭展開を強化している「スリム エアフレーム」や「ラバーモダン エアフレーム」をはじめとしたエアフレームシリーズや連載開始から50周年を迎えた「ドラえもん」をJINSならではの視点でデザインした「JINS ドラえもんモデル」が好調だったほか、消費税率引き上げ前の駆け込み需要により客数の増加があったため売上は好調に推移しました。また、メガネを掛けたままメガネをバーチャルで試着することができる新サービス「MEGANE on MEGANE」をはじめとした新たな顧客体験を実現したJINS 渋谷パルコ店がオープンし、好評を博しております。

一方で、2020年2月下旬に新型コロナウイルスに関する政府の緊急対応策が発表されて以降、客足の減少が見受けられており、業績に影響が出始めております。

店舗展開につきましては、国内直営店舗数は404店舗（出店27店舗、退店2店舗）となりました。

以上の結果、国内アイウェア事業の業績は、売上高24,468百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益3,249百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

## 〈海外アイウェア事業〉

海外アイウェア事業につきましては、中国においては、既存店売上高の成長率は回復しており、また不採算店舗を閉鎖したことなどから業績は伸長しております。

台湾においては、国内景気の回復を背景に既存店売上高は伸長しております。

香港においては、政情不安によるデモ騒動の影響により閉店を余儀なくされている店舗があり、業績に少なからず影響が出ております。

米国においては、引き続き既存店売上高の高成長が継続しております。

店舗展開につきましては、中国直営店160店舗（出店22店舗、退店6店舗）、台湾直営店30店舗（出店2店舗、退店なし）、香港直営店6店舗（出店2店舗、退店なし）、米国直営店5店舗（出店、退店なし）の合計201店舗となりました。

以上の結果、海外アイウェア事業の業績は、売上高5,826百万円（前年同期比13.3%増）、営業利益82百万円（前年同期は営業損失45百万円）となりました。

## 〈雑貨事業〉

雑貨事業を取り巻く環境は、引き続き通販サイト及び中古市場の台頭等により厳しさが増しておりますが、市況の変化に対応できるよう店舗オペレーション及び商品戦略の見直しを行っております。

一方で、2020年2月下旬に新型コロナウイルスに関する政府の緊急対応策が発表されて以降、客足の減少が見受けられており、業績に影響が出始めております。

店舗展開につきましては、メンズ雑貨専門ショップ21店舗（出店1店舗、退店なし）、レディース雑貨専門ショップ17店舗（出店なし、退店1店舗）となりました。

以上の結果、雑貨事業の業績は、売上高1,218百万円（前年同期比3.1%減）、営業損失46百万円（前年同期は営業損失90百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2019年8月期末 (2019年8月31日)	当第2四半期連結 会計期間末 (2020年2月29日)	増減	増減率(%)
総資産	36,628	57,489	20,861	57.0
負債	14,258	39,296	25,037	175.6
純資産	22,370	18,193	△4,176	△18.7

## (イ) 資産

流動資産は、38,747百万円となり、前連結会計年度末に比べ19,013百万円増加いたしました。

これは主に、受取手形及び売掛金が417百万円、商品及び製品が672百万円減少したものの、転換社債型新株予約権付社債の発行等に伴い現金及び預金が20,286百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、18,733百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,864百万円増加いたしました。

これは主に、新規出店等に伴い建物及び構築物等の有形固定資産が762百万円、敷金及び保証金が173百万円、のれんが177百万円増加したことによるものであります。

以上により、総資産は、57,489百万円となり、前連結会計年度末に比べ20,861百万円増加いたしました。

## (ロ) 負債

流動負債は、15,353百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,684百万円増加いたしました。

これは主に、自己株式の取得等を目的として一時的に短期借入金が5,136百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、23,942百万円となり、前連結会計年度末に比べ20,353百万円増加いたしました。

これは主に、転換社債型新株予約権付社債が20,250百万円増加したことによるものであります。

以上により、負債合計は、39,296百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,037百万円増加いたしました。

## (ハ) 純資産

純資産合計は、18,193百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,176百万円減少いたしました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益2,063百万円を計上したものの、配当金の支払いにより1,198百万円、自己株式の取得により5,000百万円減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、当社グループは出店している4つの国と地域で605店舗を運営していますが、新型コロナウイルス感染拡大により店舗の臨時休業や営業時間の短縮等の影響を受けております。

一方、アイウェア事業の商品仕入につきましては、フレームの大部分が中国からの輸入ではありますが、委託工場の稼働状況は随時確認しており、現段階で商品調達に関しまして問題は発生しておりません。

なお、本日公表いたしました「2020年8月期通期連結業績予想の修正及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」に記載しておりますが、下期予想が適正かつ合理的な算定が困難なため「未定」とさせていただきます。今後、新型コロナウイルス感染症の動向を見極めながら、適正かつ合理的な算定が出来次第、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,479	28,766
受取手形及び売掛金	4,396	3,979
商品及び製品	5,211	4,539
原材料及び貯蔵品	234	220
その他	1,413	1,242
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	19,734	38,747
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,876	7,616
その他(純額)	2,017	2,039
有形固定資産合計	8,893	9,656
無形固定資産		
投資その他の資産	2,153	2,366
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,156	4,330
その他	1,665	2,380
投資その他の資産合計	5,821	6,710
固定資産合計	16,868	18,733
繰延資産		
開業費	25	8
繰延資産合計	25	8
資産合計	36,628	57,489

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,370	1,431
短期借入金	1,979	7,116
1年内返済予定の長期借入金	181	97
未払金及び未払費用	3,755	3,715
未払法人税等	1,839	1,452
その他	1,543	1,540
流動負債合計	10,669	15,353
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	20,250
長期借入金	1,135	1,236
資産除去債務	506	519
その他	1,946	1,936
固定負債合計	3,589	23,942
負債合計	14,258	39,296
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,202	3,202
資本剰余金	3,179	3,228
利益剰余金	16,133	16,998
自己株式	△1	△5,002
株主資本合計	22,513	18,426
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△143	△233
その他の包括利益累計額合計	△143	△233
非支配株主持分	—	0
純資産合計	22,370	18,193
負債純資産合計	36,628	57,489



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
売上高	28,455	31,513
売上原価	6,768	7,079
売上総利益	21,687	24,434
販売費及び一般管理費	19,014	21,148
営業利益	2,673	3,285
営業外収益		
受取利息	3	2
受取手数料	14	27
受取賃貸料	3	3
為替差益	—	42
還付消費税等	—	345
その他	13	22
営業外収益合計	34	443
営業外費用		
支払利息	65	87
社債発行費	—	90
支払手数料	4	7
不動産賃貸費用	131	151
開業費償却	17	17
為替差損	8	—
その他	12	4
営業外費用合計	240	358
経常利益	2,467	3,370
特別損失		
固定資産除却損	91	102
店舗閉鎖損失	6	19
特別損失合計	98	122
税金等調整前四半期純利益	2,369	3,247
法人税、住民税及び事業税	918	1,211
法人税等調整額	7	△27
法人税等合計	925	1,184
四半期純利益	1,443	2,063
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,443	2,063

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益	1,443	2,063
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△53	△90
その他の包括利益合計	△53	△90
四半期包括利益	1,390	1,973
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,390	1,973
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)

当社は、2020年2月12日開催の取締役会に基づき、自己株式636,100株の取得を行っております。この結果、第2四半期連結累計期間において、自己株式が4,999百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が5,002百万円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	雑貨事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	22,057	5,140	1,258	28,455	0	—	28,455
セグメント間の内部 売上高又は振替高	253	5	—	258	—	△258	—
計	22,310	5,145	1,258	28,714	0	△258	28,455
セグメント利益又は損 失(△)	2,808	△45	△90	2,673	0	—	2,673

(注) 1 「その他」の区分は、全社部門等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	雑貨事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,468	5,826	1,218	31,513	—	31,513
セグメント間の内部 売上高又は振替高	355	6	—	361	△361	—
計	24,823	5,832	1,218	31,875	△361	31,513
セグメント利益又は損 失(△)	3,249	82	△46	3,285	—	3,285

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、2019年7月1日付で持株会社制へ移行したことにより、当社がグループ経営管理事業を担うことになりました。これに伴い、グループ経営管理事業で発生した収益及び費用は各報告セグメントに配賦しております。